

§1 活動方針

昭和60年度、61年度に引き続き日常携わっている設計作業の中で問題となった事例を、一会合一テーマの原則のもとに、各種基準の比較を踏まえながら検討討議を行い、鋼橋技術に従事する一線の技術者に情報交換の場を与えることとする。

また昭和61年度から新たに鋼橋の設計に寄与する具体的な成果を上げるべく、テーマを絞った具体的活動(隅角部の設計法)を継続研究している。

§2 各会合記録

第15回 昭和62年5月13日 場所 早稲田大学理工学部 出席者25名

- 内 容
1. フレキシブル型鋼橋を有する連続桁の水平力の照査について
 2. トラス、アーチ系橋梁における床組の付加応力と製作寸法の考え方について

第16回 昭和62年7月15日 場所 野口英世記念館 出席者25名

- 内 容
1. アンカーフレーム引抜きせん断に関する設計法
 2. 上部工、下部工、基礎工の立体解析について

第17回 昭和62年9月9日 場所 早稲田大学理工学部 出席者25名

- 内 容
1. 方杖ラーメン橋の脚の有効座屈長について
 2. 斜橋の設計上の問題点について

第18回 昭和62年11月11日 場所 新東京ホテル 出席者22名

- 内 容
1. 偏平多室箱桁の設計法について
 2. 斜張橋のケーブルプレストレスについて

第19回 昭和63年1月20日 場所 (株)東京鐵骨橋梁製作所 出席者18名

内 容

1. 曲線桁の腹板厚について
2. 高架道路橋の交通振動対策について

第20回 昭和63年3月16日 場所 東京大学 出席者 26名

内 容

1. 有効座屈長の算定方法と非線形構造解析を前提とした設計体系について